

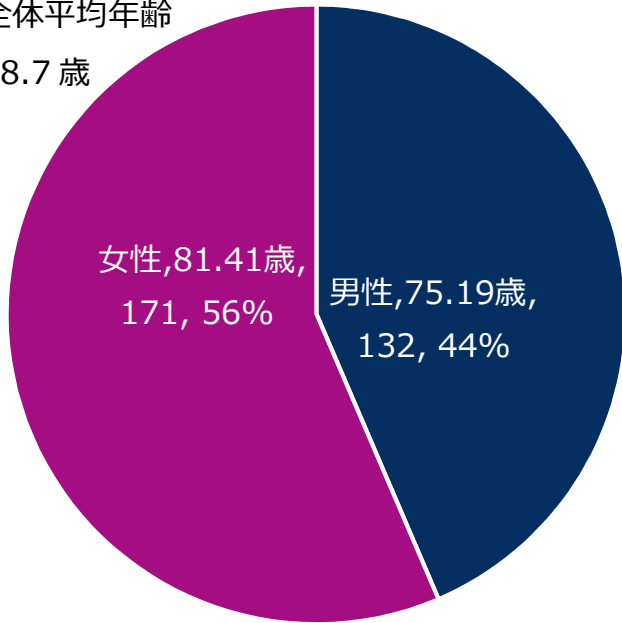
2019.1-2019.6月(第1四半期) 回復期リハビリテーション病棟 入棟退棟者データ

1. 新規入棟者データ N=303

■回復期病棟 新規入棟者 性別/平均年齢

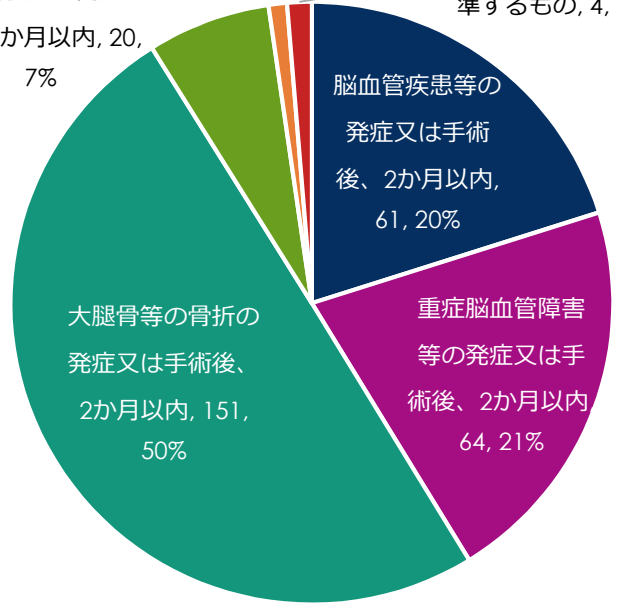
- ・男女比はおよそ 4:6
- ・平均年齢は女性 81.41 歳 男性 75.19 歳
- ・全体の平均年齢は 78.7 歳

全体平均年齢
78.7 歳



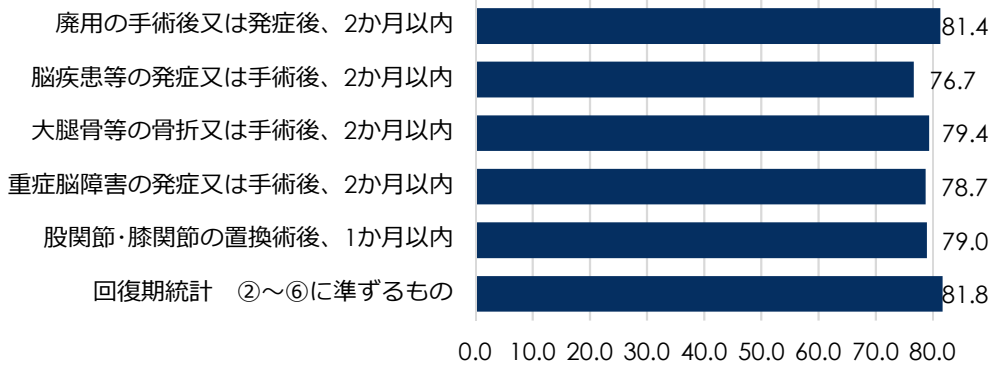
■回復期病棟 新規入棟者 入棟理由別割合

- 脳血管疾患等の発症又は手術後、2か月以内、61, 20%
- 重症脳血管障害等の発症又は手術後、2か月以内、64, 21%
- 大腿骨等の骨折の発症又は手術後、2か月以内、151, 50%
- 股関節又は膝関節の置換術後、1か月以内、3, 1%
- 回復期統計 ②～⑥に準ずるもの、4, 1%
- 廃用症候群を有し手術後又は発症後、2か月以内、20, 7%



- ・脳血管系の疾患はおよそ 41%
- ・運動器系の疾患はおよそ 50%
- ・廃用症候群はおよそ 7%

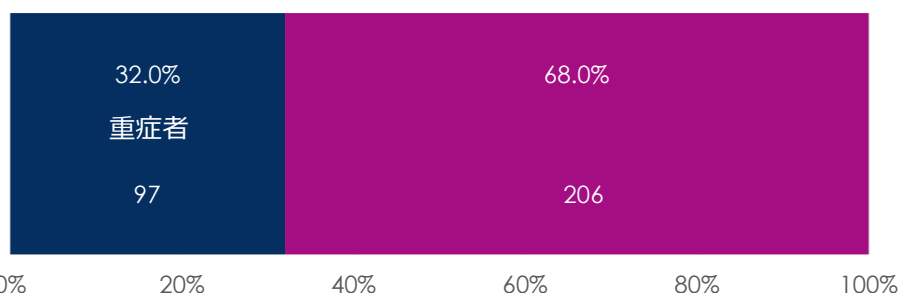
■回復期病棟 新規入棟者 入棟理由別/平均年齢



- ・脳疾患後遺症が最も若く、およそ 76.7 歳
- ・大腿骨頸部骨折は、79.4 歳となっている
- ・廃用症候群は 81.4 歳

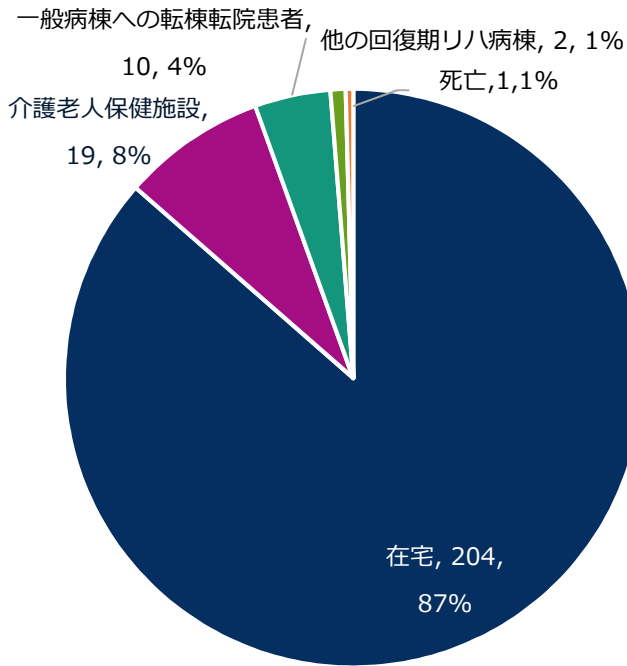
■回復期病棟 新規入棟者 日常機能評価 10 点以上(重症)者割合

・日常生活機能評価 10 点以上(重傷者)の割合は 32%



2. 退棟患者データ N = 236

■回復期病棟 退棟者 退棟先割合



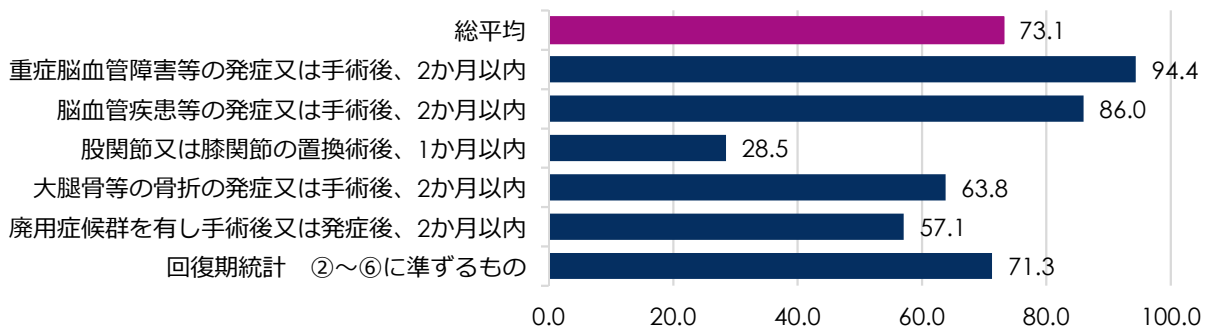
・在宅への復帰率は87%(※1)

・8%の方が介護老人保健施設や療養病床・病院へ移られている

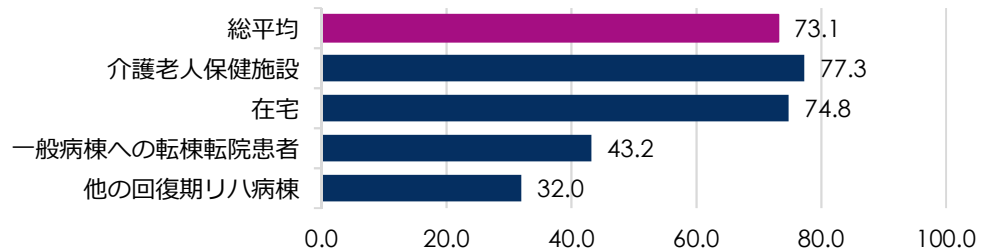
・全国平均 78.3%を大きく上回っている

※1:在宅復帰率は、自宅だけでなく、有料老人ホーム等の福祉施設への退院者も含まれている
分母については、一般病棟への転棟転院患者は含まれない

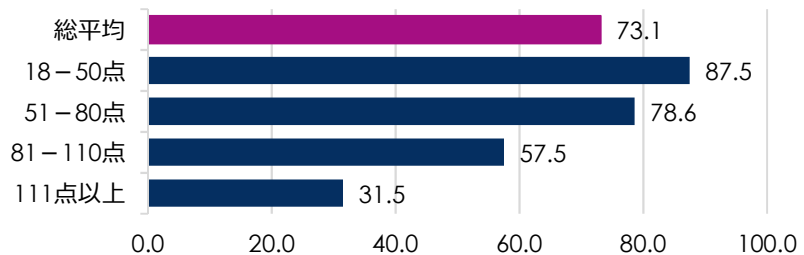
■回復期病棟 退棟者 入院理由別／平均在院日数



■回復期病棟 退棟者 退棟先別／平均在院日数



■回復期病棟 退棟者 入院時 FIM 点数別／平均在院日数



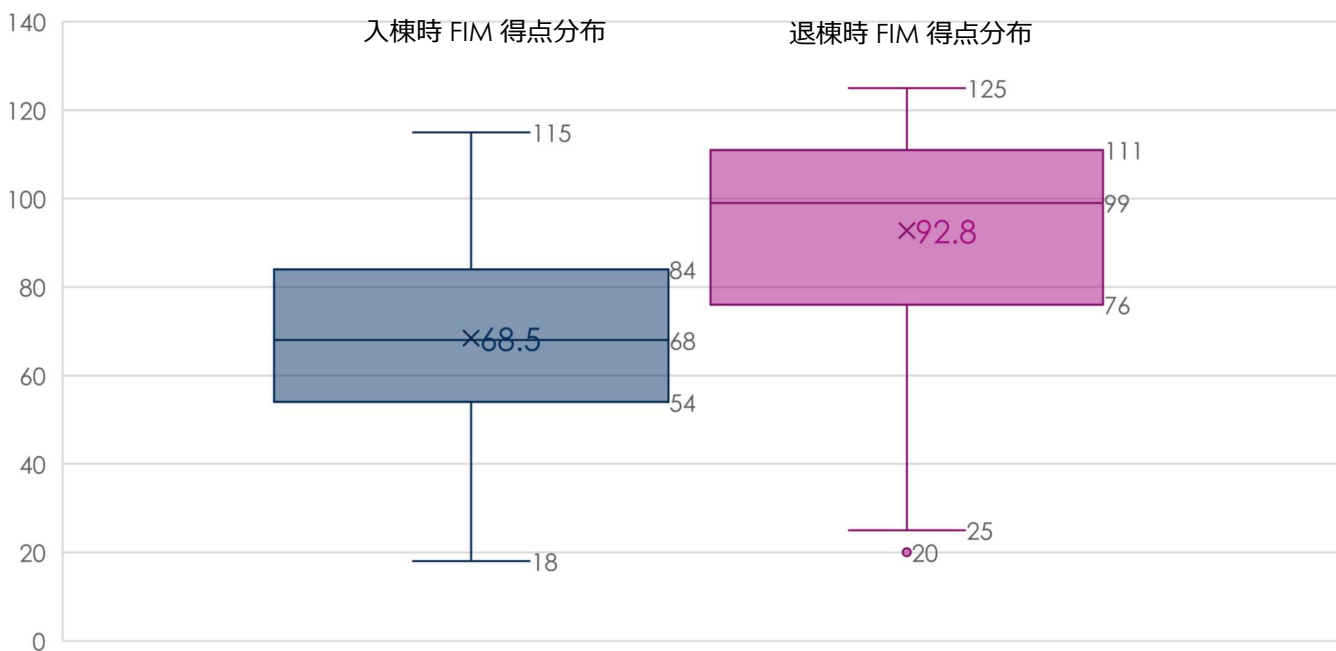
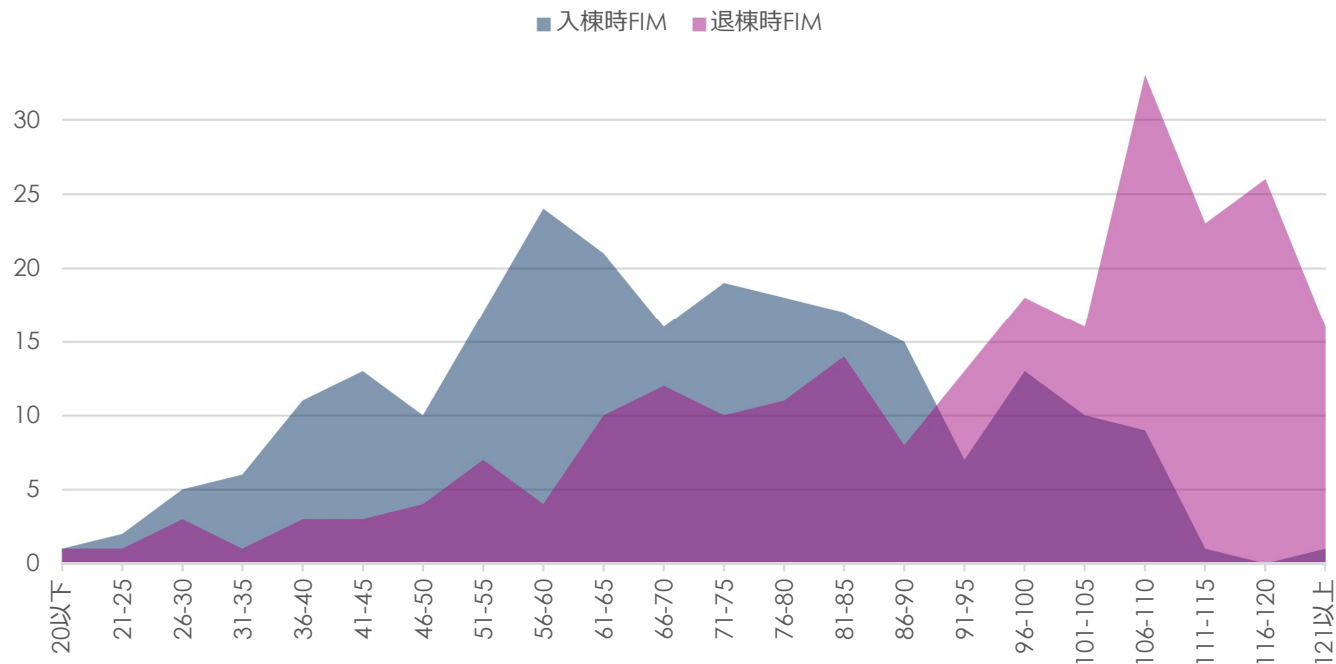
・脳血管疾患と比較し運動器疾患、廃用症候群の在院日数が短い傾向にある

・在宅復帰者と比較し、老健施設へ移られる方の在院日数が長くなる傾向が見られる

・入院時 FIM 点数が高い方に在院日数が短くなっている傾向が見受けられる

3. 日常生活動作能力(FIM 得点)の分布と改善度 N=236

■回復期病棟 退棟者 日常生活動作能力(FIM 得点)分布 入棟時－退棟時比較



・FIM(機能的自立度評価表※2)の得点分布は、全体的に改善方向へシフトしている。

・リハビリ開始時と終了時を比較すると、FIM の点数が平均で 24 ポイント改善している。(全国平均 21 ポイント)

※2:FIM(機能的自立度評価表)

日常生活動作(ADL)が自力でどの程度可能かを評価し点数化する評価方法。最高点が 126 点最低点は 18 点。得点が高いほど日常生活の自立度が高いことを意味している。

4. 退棟者 実績指数 N=235

	患者数	平均入棟日数	FIM 運動項目 平均改善度	実績指数
退棟患者全体 (名)	239	72.07	21.73	34.33
(1) 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント、手術後、脳腫瘍、脳炎、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症、義肢装着訓練を要する状態又は手術後2か月以内	53	85.84	23.26	40.64
(2) 高次脳機能障害の患者	39	93.66	21.46	40.46
(3) 大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の骨折の発症、二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後2か月以内	129	62.26	21.79	31.5
(4) 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により生じた廃用症候群を有しており、手術後又は発症後2か月以内	12	54.16	18.08	30.04
(5) 大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後1か月以内	0	0	0	0
(6) 股関節又は膝関節の置換術後1か月以内	2	28.5	21.5	67.89
(7) (1)～(6)に準ずるもの	4	71.25	13	16.42

- ・全体的な実績指数(※3)は **34.33** 点と厚生労働省が示す回復期病棟の目標値 30 点を上回っている。
- ・入棟理由別の実績指数は、「脳血管疾患障害の患者」の方たちが 40.64 点と最も高く、次に「外科手術又は肺炎等の治療時の安静により生じた廃用症候群を有しており、手術後又は発症後2か月以内」が高い状況で、FIM の改善率が高いことを示している。
- ・入棟理由別の実績指数は、「(1)～(6)に準ずるもの」の方たちが 16.42 点と最も低く、FIM の改善率の低さや、転院時期の問題等がつかえる。

※3:実績指数

回復期リハビリテーション病棟の効果を計る指標として厚生労働省により報告が義務づけられている点数。入院期間が短く、かつ日常生活動作能力(FIM 点数によって評価)がたくさん改善すると点数が高くなるようになっている。